

一人が轉ぶと他まで轉ぶ様な事になるので銘々一人で駆足で先生のをたなをかけて來る様にする。そして一人で勝手な所へ行かず、先生又は大人と必ず一緒に避難する様に云つておく。皆一所にかたまらず壕又は植込みの中などに散らばつてゐることも場合に依つては良い。

ハ、態度

幼児には、先生のする通りに早くする様に云ひ聞かせ、少しの事で泣かないこと、先生のおつしやることを良く聞くこと等約束しておく。訓練中には、前にも述べた如く、空襲に對する恐怖心を起させる様なこと無く、保母は平靜に敏速に行動すべきである。

保育室には、救急袋、又は應急箱等（副木も）備へ、非常の際には、保母がそれを肩からかけて避難する。萬一にそなへて、幼児、保母の血液型など調べて、何處か部屋の目につき易い所に貼つておく。そして保母は應急處置が出来る様、救急知識を養つておくことも必要である。例へばどんな外傷にも驚くこと無く、處置出来る様、保母の平生の決意が大切である。

先日、防空訓練日の實習科生徒の日誌に、「子供が、練習の時の如く、さつさと着かへて、ついて來て呉れないとしたらどうしよう。私達は餘程しつかりしてゐなくては行けない。命にかへても子供達を守つてやらなくてはならない。皇國の明日を荷負つて行くべき子供なのだから私達はきつとく、安全に守つてやらねばならぬと痛感する」

一日の保育計畫の立て方

菊池ふじの

自分の託されてゐる幼児達に、今日の一日を、或は明日の一日をどういふ風に過させやうかといふ問題は、斯の道に長く携はつてゐる者にも、況して新しく斯の道に這入つて來た保育者なら尙更のこと、考へる大問題である。

聊かの弛緩なく間隙なく、樂しき緊張の中に下降時の來たのも識らずに、「もうお歸り？」と驚き、「あゝ面白かつたなあ、又明日續きしやうね」と歡聲を洩らして歸つてゆく幼児達を見送つた時の保母の喜びも亦

と書いてありましたが、本當にそうだと思ふ。

お國の大切な子供である。これからの日本を背負つて立つ子供達、將來ある子供達、やがては、大東亞の指導者となるべき子供達である。私達は幼児の防空訓練について、眞劍に考へ、實行して子供達を守りぬきたいと思ふ。

たとへやうがないのである。保母の念願するところは只偏に、今日の一日を、幼児をして教育的に如何に樂しませ充實させてやるかに盡きる。

扱て高等女學校の卒業者或は高學年の人達は、この幼児達を喜ばせ度い樂しませ度いといふ幼児に對しての愛情に於ては、實に申分のない純情の持主であつて、幼児の爲にすることに於ては苦勞も心勞も厭ふところでなく、むしろその親切心の横溢をこそ適當に指導する必要があると考へられる

のである。

扱て保育案の立て方、或は一日の計畫の立て方に就て、どういふことを話し導いたらよいであらうか。

保育案の立て方

先づ幼稚園には、五つの保育項目といふものがあることを話す。そしてこの項目といふのは國民學校の教科目に當るものではないが、極くその大綱を示されてあるだけで、細かい課程とか進度とかいふものは何にも規定されてゐない。大ざつばと言へば大ざつば、自由と言へば自由なのである。

國民學校の教科目は兒童の興味や年齢に無關係に押しつけられてゐるものではなく、長い間、その道の専門家によつて究め盡したもので、その年齢の兒童に理解も興味も可能なものはかりを編成したものであるが、幼稚園の保育項目も亦子供の生活の外にあるものではなく、子供の自然の生活の中に満ち溢れてゐるものを抽象して言ひ表はしたまでのことなのである。五項目とは手技、談話、觀察、遊戲、唱歌の五つである。例へば、子供の生活を見てゐると、子供は始終、泥で、砂で、或は紙で、木の葉

で、草で何かを作つたりしてゐる。即ち項目の手技にあたる。又話を好むことは周知の事であるし、蟻やとんぼの出現にも目を張ること、即ち觀察せんとすることは説明するまでもない。又子供は氣分の惡くない限り、何かを歌ひ、喜びに乗じては手舞ひ足踊る(遊戲)といふ有様で、總てこの五項目は子供の生活と無關係なものではなくその生活の中にあるものなのである。

一日の保育計畫を立てるのには先づこの保育項目を基礎とし、これが偏らないやうにと心を配ることが大切である。これと同時に他方に於ては、季節、行事、場所といふやうなことを念頭に入れなければならぬ。五項目を如何によく鹽梅してあつても、それが幼稚園や保育所の環境(この中には季節のことも行事のことも場所のこともはいるのである)と無關係であつてはいけない。常に環境を念頭に入れ、或時にはむしろ環境から生じ來る興味の方を主體にして保育計畫を立てた方が、よく子供の興味に合致し、生き／＼と、喜んで、しかも教育効果を多分に擧げつゝ、その日を過すことが出来ることも澤山あるのである。

例へば九月の末頃或る保育所のある町に鎮守様のお祭りがあるとする。その頃はそのお社からは太鼓の音が聞えて來て子供達の心を刺戟してゐるに違ひない。この時に、みんなにそのお社のお話をし、花傘を作らせるとする。きつと、子供等は誠に生き／＼として製作し終へるであらう。保育案はどこまでも子供の興味のあるものでなければならぬ。

保育案の立て方實例 扱て保育項目本位の案の立て方に於ては、幼兒の一日の生活を、大體午前と午後に大別し、午後は概ね自由遊びに當て、午前に二項目位を當てる。その二項目は一つは子供から見受身の如く見えるものを、他の一つは、發動的と見られるものを配列する。例へば或る日の午前をお話と自由畫、或る日を唱歌と製作(風車)といふが如きである。併し受身といひ、活動的とは言つたものゝこれは極く皮相的な觀察から見た便宜上の言葉に過ぎないのであつて、子供がお話を聞いてゐる時とか唱歌を唱つてゐる時は、如何にも受身の如くに見えるけれども、お話を聞きながらの子供の心的活動は次から次へと想像力を旺

盛に動かしとしての活動であり、唱歌を歌つてゐる時も潑刺とした心の動きは決して受身などいふ靜的なものではないのである。

保育案は一年を一月をと考へておく事は大切であるけれども、天候や行事等のもあるので、長い期間のことはごく大まかな考をしておくのみに止め、普通には一週間分を立てる週案が廣く行はれてゐる。一週間の保育案の大綱を假に示して見ると、

月	談話	自由畫
火	遊戯歌	製作
水	談話	粘土
木	觀察	ぬりゑ
金	唱歌	缺仕事
土	談話	自由畫

右の如く一週間に、談話三回、唱歌・遊戯二回、手技六回、觀察一回と割當て、見たが如何であらうか、この他に蝶の案があり、幼稚園としての行事があり、臨時のラヂオ放送を聞くこともあり、幼兒なりの畑いじり、體鍊行事、防空訓練等もある。

この各項目の下の括弧内に書き入れられるべき、何のおはなし、何を描く、何の歌

を、何を作る、何を観る、の何といふ具體名は、實にその幼稚園なり保育所なりの在所の季節と行事とによるものである。

尙ほ談話三回と言つても、その中には所謂童話あり、時局の話あり、觀察ばなしあり、又歴史の話あり、神話あり、人形芝居紙芝居ありで仲々單調ではない。手技を六回としても、その中にはやはり、自由畫、製作、ぬりゑ、缺仕事、粘土等種々あり、自由畫の中にも、全く幼兒の自由に任せる場合と、實物の寫生とか、或は聞いたお話の場面を表はすとか、今習つてゐる唱歌を繪に表はしてみるとか、いろ／＼變化のある課し方が出来るのである。併し注意すべきことは、仕事への熱心から、外遊びの時間を餘り少くないやうにと心組むことである。

尙ほ、蝶と觀察の二項目は、子供と共にある生活に於てよくその機會があるもので、保姆はその好機逸すべからずとして隨時隨所に於て行ふのが最も普通であつて、一週間一度の立案等するのはむしろわかしいやうでさへある。併し案は多く立て、置くべく、準備は豊かにしておくべきで、むしろ盛り澤山な位にしておくのがよい。子

供の生活の動きによつて、削除することはいと容易であるからである。準備不足で慌てるよりは、盛り澤山にしておいて削る方がよい。

今、日本幼稚園協會發行の「系統的保育案の實際」に據り、幼稚園に入りたての一週間分の週案の細案を例示して見る(日や曜日は假りに定めた。)

四月一日 月

携帶品片附 躰・挨拶 部屋、席、下駄箱、各自の道具入れ抽出をおぼえる、組のお友達の名を覺える、含嗽・洗手のこと、談話(桃太郎) 自由畫(何でも好きなもの) 他の組を見にゆく、自由遊び

四月二日 火

携帶品片附 朝の挨拶 前日の躰をもう一度繰り返す 唱歌(みんなの知つてゐる唱歌、結んで開いて、マ、エト) 製作(輪つなぎ) 自由遊び

四月三日 水

(挨拶、躰等以下略す) 談話(ポコ) 遊戯(行進、結んで開いて、蝶々、一拍飛び(スキップ))

四月四日 木

觀察(幼稚園の庭を歩く、國旗掲揚場へゆき旗を掲げて見る) ヌリエ(ヒノマ
ルノハタ)

四月五日 金

唱歌・遊戯(前のを繰り返す、單調に過ぎるやうならマ、ゴトを新しく加へる) 鉄仕事(自分の好きなもの)

四月六日 土

談話(富子さんの風船) 自由畫(自由)

注意 輪つなぎの用意、鉄仕事の用意をする。幼兒各自の筆箱の中のもの、準備。

以上は、従来の幼稚園としての場合の立案例であるが、現在に於ては、保育用品、保育材料等の纏まつて販賣してゐるものは殆んど無いから、こゝに非常に頭を働かせなければならぬことになる。併し厚紙には古葉書とか、古箱等を使ひ、模造紙替りには謄寫版刷りの不用の紙の裏や、包み紙など、幼稚園や家庭に空しくしてある材料を活用するやうにすれば、保育資材はまあ／＼あるのではなからうか。場合によつては、資材を使はない保育といふことが大

いに考へられなければならないと思ふ。

誘導保育 以上は、保育項目を主體としてに季節、行事等を考慮しての所謂課程保育案の立て方に就て述べたのであるが、この立場とは違つた観点からの誘導保育案と云ふのがある。これは幼兒の生活興味を其日／＼、其場限りのものとせず、或目的の下に集中せしめて、或期間繼續せしめんとするものである。例へば「おもちゃや屋」といふ主題の下に、おもちゃや屋の誘導保育案を立てたとする。これは、こまとか、風車とか勳章、刀など個々のおもちゃを製作して、それをを用ゐて遊ぶだけでも、幼兒には興味のあることなのであるが、尙ほこれを、おもちゃ屋といふ主題の下に計畫的に進め、次々に出来たおもちゃは、おもちゃ屋といふまとまつた目的の下に計畫せられたお店に陳列整理をし、賣買といふ極く簡単な社會興味をも合せて味はせ得るのである。幼兒の興味の有様を觀察するのに、一つ／＼おもちゃを作つて遊ぶ時よりは遙かに大きな、そして長い期間生々とした興味を感じ、何事もおもちゃ屋の爲にといふ必要と動機から出發させられるので、興味繼

續は勿論のこと、その仕事へのは入り方に不自然さがない。現在國民學校の低學年に課せられてゐる綜合教育は實にこの誘導保育と軌を一にするものである。

然らば、この誘導保育の主題は如何にして決めるか、それは子供の興味のあるものであれば何でもよい。季節的な興味から取る場合もあらうし、家庭年中行事から取る場合もあらう。又社會行事から来るもの、純然たる幼兒の興味から来る場合もあらう。今試みに「系統的保育案の實際」に拾録せられてある誘導保育案の主題に就て分類を試みて見やう。

季節的な興味を主題にしたもの
田植、蟲の家、スキー場、水族館
家庭年中行事からもの
五月節句、七夕祭り、お月見、双六遊び、お正月、節分、雛祭り
社會行事からもの
秋祭り、時計屋時の記念日に基ついて、
幼兒の興味本位のもの
汽車ごっこ、おもちゃ屋、動物園、八百屋、人形の家、紙箱の家、お花屋、郵便局

尙ほ「慰問袋作り」といふ、時局から主題を取つたもの、「學校二つ」といふ或る時期(國民學校進學を控へた時期)に持つ興味から主題を取つたものもある。こうして實際に實行して見ると、前にも述べたのであるが、季節とか社會とかいふものは明らかに反映されるもので、春の「八百屋遊び」には春のお野菜が、秋の「八百屋遊び」には秋の景物が並べられ、幾度も實行した案ではあるが、同一といふことはなかつた。紙箱で作る町に於ても今年作られるものには、家々にはきつと防空壕があり、火叩き、防水桶等の防空資材が家々に備へられるであらう。

扱て、それならば、この誘導保育案と保育項目との關係は如何?それはこの目的の下に各保育項目が引へばり出されるのが理想的だと言へるであらう。例へば人形の家に於て、人形の爲にいろいろの道具やおもちゃが製作せられ、人形の家の額として幼児畫が、又は畫帖が要るといふ風に。若しこの中に自然に織り込めない項目があるとすれば(實際としては唱歌・遊戯・談話など)それは課程保育として別個に挿入してもよい。

保育所、託児所の場合 以上は、従来の幼稚園に於て主に行はれ來つた案及び立案の仕方であるが、時局の要請に應へて目下増設を見つゝある保育所や託児所の場合はどうであらうか、幼稚園の場合と比較して受託児の数が多いこと、時間が長いこと、家庭が勤勞家庭であること、受託児の年齢や期間が區々であること等が擧げられるであらう。それ故に、幼稚園としてよりは廣い職能を發揮しなければならぬ。例へば、幼稚園の場合でもさうではあるが、忙しい母親なるが故に、尙一層、幼児の身の廻りのこと、――顔がよく洗つてあるかどうか、髪はよくとがしてあるか、衣服の汚れが代へられてあるか、爪が伸びてないか等――又顔色とか元氣とか健康に氣をつけたり、そういうことの実際の世話に朝の一時は忙殺されることであらう。それが濟めばやがて素食の準備、後片附、晝寝、お三時の世話と、それからその間に起る偶發事故等の爲めに、幼稚園に於ける如き案やその實行等は思ひも及ばないことかも知れない。この時局に、如上の案を例示するなど、はもつての外のこととお叱りを買ふことを

恐れたのであるが、併し、幼稚園に於ける如き、専ら幼児の教育の爲に、又幼兒を樂しませる爲にと、幼兒本位にいづばいに考へてゐる細かい案を保母の心の中に藏してゐるならば、いくら多忙でも、機會ある毎に保母の教育意圖がにじみ出で、無計畫、無理想にその日、その日の仕事を果すよりは、結果に於ても大差が生じ、保母としての満足感にも格段の相違が生じることと思ふ。

結び 最後に、保育案は常に用意はしてゐなければならぬが、さりとて、その案にのみ捕はれて、動きのとれないものとしてしまつてはいけぬ。保育者は絶えず幼兒達の生活の動き、興味の有様に注意し、臨機應變の處置を講すべきである。

熱心なる幼兒教育愛と、保育に關しての種々の技巧と、臨機應變の處置を講じ得る才能とを持ち合せてゐる保母ならば、いづ如何なる場所に於ても即座に、適切な具體案が湧き出で、幼兒に對してよき誘導指導が與へられ、且つその中に幼兒をして無上

に樂しませ得ることが出来るであらう。